森づくり最前線

会津森林管理署南会津支署
小林森林事務所　首席森林官　栗城武実

『八十里　こしぬけ武士の　越す峠』

八十里越（はちじゅうりごえ）は、幕末から戊辰戦争にかけて越後長岡藩の家老であった河合継之助が長岡から会津藩を目指した峠です。無念にも道半ばで42歳の生涯を終えた継之助終焉の地として知られる福島県只見町にあり、小林森林事務所も当町にあります。

只見町は、福島県西端の新潟県境に位置し、浅草岳や会津朝日岳など標高1,000m級の山々に囲まれた山間地で、県内でも有数の豪雪地帯です。昨年は、森林事務所周辺で約２m、只見駅周辺では３m以上の積雪がありました。この豪雪により周囲の山々は独特な地形を呈しており、緑の山肌にまるで彫刻刀で削られたように、むき出しの岩盤が現れた迫力のある景色に圧倒されます。これは雪崩により山肌が削られる「雪食地形」といわれる豪雪地帯ならではのもので、標高の低い森林帯にあるのは日本だけという世界的に見ても珍しい光景です。

また、その地形にあった植物群落がパッチ状に分布する「モザイク植生」となっています。ブナ林をはじめ森林が町の面積の約94％を占め、希少猛禽類やツキノワグマなどの多様な野生動植物が数多く生息・生育しています。このような豊かな生態系や生物多様性の保全と人々との共生を目的として、平成26年にユネスコが認定するエコパークに只見町が登録されました。

当事務所の管轄面積は約５万haと広大です。施業が必要となる人工林は約１千haあり、スギ・カラマツの40年生以上の林分が大半を占めていますが、林道から離れた奥地林が多いことから、効率的な施業が課題となっています。

また、管内の国有林では、約10年前からカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害が発生していることから、只見町と共同でキクイムシを誘引する丸太を設置し捕獲する対策を実施しています。これを今後も継続し、被害防止に努めていきたいと考えています。

▲ 冬の小林森林事務所

▲「雪食地形」と「モザイク植生」

▲ 新緑

「国有林と田子倉ダム」　▲ 紅葉

▲ ナラ枯れ被害地

発行所：関東森林管理局　編集：総 務 課　☎(027) 210 - 1158　FAX (027) 230 - 1393